

Annals of Uonuma Kikan Byoin

vol.8 2023.4-2024.3



新潟大学地域医療教育センター
魚沼基幹病院

< 記載上の留意点 >

- 複数診療科・部門にて行われた研究・業績については、『「論文責任著者・筆頭著書・筆頭演者」の属する診療科・部門』に、代表して掲載しています。

- 当院職員、また、当院職員のうち筆頭演者・著者に、以下のとおり下線を引いています。(UKB リサーチ 2023 頁・院内研修会頁を除く)

当院職員で論文責任著者・筆頭著者・筆頭演者 (2重下線) (単名の場合含)

当院職員で論文責任著者・筆頭著者・筆頭演者以外 (1重下線)

当院職員以外 (下線なし)

- 診療科・部門別に項目別に記載し、項目内を国際→国内の順、日付順に記載しています。
- UKB リサーチ 2023 頁は筆頭演者に下線を引いています。

目次

巻頭言

魚沼基幹病院 病院長 鈴木 榮一

診療部

- 総合診療科 1
- 循環器内科 3
- 内分泌・代謝内科 6
- 腎臓内科（リウマチ科・膠原病科） 7
- 呼吸器・感染症内科 11
- 消化器内科 13
- 脳神経内科 16
- 精神科 17
- 小児科 20
- 消化器外科・一般外科（乳腺外科） 22
- 呼吸器外科 24
- 整形外科 25
- 脳神経外科 30
- 皮膚科 32
- 泌尿器科 34
- 耳鼻咽喉科 35
- 産婦人科 36
- 放射線治療科 38
- リハビリテーション科 39
- 歯科口腔外科 40
- 病理診断科 41

感染管理部

. 42

地域医療部

- 精神医療支援科 44

薬剤部

. 45

医療技術部

- 放射線技術科 47
- 臨床検査科 48
- リハビリテーション技術科 49
- 栄養管理科 53
- 診療技術科 54

看護部

. 55

事務部

. 56

UKB リサーチ 2023

. 57

院内研修会

. 59

巻 頭 言

あつという間に、今年もまた、業績集 *Annals of Uonuma Kikan Byoin* を発行する時期になりました。1年が過ぎるのは早いものです。今回の vol.8 は、令和 5 年度に各診療科、各部署が発表した業績を取りまとめたものです。

令和 5 年度は、開院以来の当院のモットーである「地域全体でひとつの病院」をさらに推進するために、あらためて医療連携を病院の大きな目標として進めてきました。地域医療連携推進室を新たに設置し、外来機能の見直しによる紹介・逆紹介の推進、地域医療連携ネットワークである「うおぬま・米ねっと」の加入促進、さらに、念願であった病院機能評価も受審し、無事認定を受けることができました。各部署にはこれまで以上に負担の大きかった一年だったと思います。そんな中で、*Annals of Uonuma Kikan Byoin vol.8 2023.4-2024.3* を刊行できたことに、あらためて各診療科、各部門のご努力に、敬意を表したいと思います。

当院は、開院以来、医師をはじめ様々な職種の医療人を育成することを、大きな目標として掲げており、新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センターを併設しています。臨床研修医（基幹型）も、令和 3 年度 3 名（修了後県内定着 3 名）、令和 4 年度 4 名（同 3 名）、令和 5 年度 5 名と少しずつ増え、ついに令和 6 年度は 8 名となりました。また、令和 5 年度から開始した指定研修機関としての看護師の特定行為研修（3 区分、1 パッケージ）も、初年度 7 名が修了し、令和 6 年度からは 1 区分、1 パッケージの募集を追加しています。今後も、当院各職員のキャリアアップのための研修に、より一層力を入れたいと思います。

医学生や各種職種の大学生、専門学校生の実習受け入れも積極的に行っており、複数の高校の病院見学や近隣の中学校の職場体験学習なども積極的に受け入れています。

また、病院内での UKB リサーチをはじめ、臨床現場での経験をもとに臨床研究として、診療部各診療科の医師、歯科医師のみならず、多部門各職種の各種学会・研究会等での発表や、論文投稿なども、これまで以上に応援していきたいと思っています。

当院も今年が開院 10 周年を迎えます。当院が今まで以上に、教育・研修、さらに臨床研究のメッカとなり、さらにいろいろな情報を発信していけるようになることを期待しています。

令和 6 年 8 月

一般財団法人新潟県地域医療推進機構
魚沼基幹病院 病院長 鈴木 榮一

論文(原著)

Ogawa F, Takachi R, Ishihara J, Yamagishi M, Maruya S, Ishii Y, Kito K, Nakamura K, [Tanaka J](#), Yamaji T, Iso H, Iwasaki M, Tsugane S, Sawada N.

Dietary sodium sources according to four 3-day weighed food records and their association with multiple 24-hour urinary excretions among middle-aged and elderly Japanese participants in rural areas.

Br J Nutr 129(11): 1955-1963, 2023.

Hoshino T, Kaneko N, Yoshihara A, Iwasaki M, Suwama K, Ito Y, [Tanaka J](#), Narita I, Ogawa H.

Association between plasma antibody levels against Porphyromonas gingivalis and atrial fibrillation among community-dwelling older individuals in Japan: a cross-sectional study.

Oral Health Prev Dent 21 (1): 339-346, 2023.

Mori N, Murphy N, Sawada N, Achaintre D, Yamaji T, Scalbert A, Ishihara J, Takachi R, Nakamura K, [Tanaka J](#), Iwasaki M, Iso H, Inoue M, Gunter MJ, Tsugane S.

Reproducibility and dietary correlates of plasma polyphenols in the JPHC-NEXT protocol area study.

Eur J Clin Nutr 78(1): 34-42, 2024.

Thwin KM, Kaneko N, Okubo H, Yamaga T, Suwama K, Yoshihara A, Iwasaki M, Ito Y, [Tanaka J](#), Narita I, Ogawa H.

Association between dry eye and periodontal disease in community-dwelling Japanese adults: data from the Unuma cohort study.

BMC Oral Health 24(1): 47, 2024.

Murai U, Ishihara J, Takachi R, Kotemori A, Ishii Y, Nakamura K, [Tanaka J](#), Iso H, Tsugane S, Sawada N.

Validity of the intake of sugars, amino acids, and fatty acids estimated using a self-administered food frequency questionnaire in middle-aged and elderly Japanese: the Japan Public Health Center-based Prospective Study for the Next Generation (JPHC-NEXT) Protocol Area.

J Epidemiol doi: 10.2188/jea.JE20230132, 2024.

Suzuki A, Takachi R, Ishihara J, Maruya S, Ishii Y, Kito K, Nakamura K, [Tanaka J](#), Yamaji T, Iso H, Iwasaki M, Tsugane S, Sawada N.

Urinary biomarkers in screening for the usual intake of fruit and vegetables, and sodium, potassium, and sodium-to-potassium ratio: required number and accuracy of measurements.

Nutrients 16(3): 442, 2024.

著書など

田中純太.

診方：足のむくみ；持病や左右差をチェック

これって、病気かな-総合診療医のみかた, 14-15 頁, 新潟日報社, 2024.

学会・研究会・講演会

Kabasawa K, Ito Y, Kabasawa H, Takachi R, Nakamura K, Tanaka J, Narita I.

Diet and the discrepancy between cystatin C- and creatinine-based eGFR in middle-aged and older community-dwelling Japanese adults.

American Society of Nephrology Kidney Week 2023 (ポスター) (Philadelphia, 2023 年 11 月 2 日-5 日)

浅野滉佑、蒲澤佳子、伊藤由美、成田一衛、田中純太.

カルシウム、ビタミン D 摂取量と 5 年後の再発性転倒との関連について：湯沢コホート研究

第 120 回日本内科学会総会／講演会 (ポスター) (東京, 2023 年 4 月 14 日-16 日)

田中純太.

遠隔健康医療相談による症状モニターとスポーツドクターの連携を通して症状制御を行った Lower airway dysfunction の一例.

第 34 回日本臨床スポーツ医学会学術集会 (ポスター) (横浜, 2023 年 11 月 11 日-12 日)

山岸万里菜、高地リベカ、石原淳子、丸谷幸子、石井有里、鬼頭久美子、中村和利、田中純太、山地太樹、磯博康、岩崎基、津金昌一郎、澤田典絵.

重回帰法を用いた Na 排泄量・Na/K 比の予測式開発と内的妥当性の検証 (JPHC-NEXT 妥当性研究)

第 34 回日本疫学会学術総会 (ポスター) (大津, 2024 年 1 月 31 日-2 月 2 日)

蒲澤佳子、伊藤由美、高地リベカ、中村和利、田中純太、成田一衛.

食事とシスタチン C およびクレアチニンによる eGFR の乖離.

第 14 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 (ポスター) (新潟, 2024 年 3 月 16 日-17 日)

研究費(科学研究費)

田中純太：代表 基盤研究費 (C) 23K09737 2023～2025 年度

地域住民における農作業や除雪作業が心身の健康に与える影響:10 年間の追跡

循環器内科

学会・研究会・講演会

山本泰雅、田中和世、若杉嵩幸、木村新平、猪又孝元。

強心薬併用して心保護薬の導入を行い、心機能の改善が得られた1例。

第120回日本内科学会総会/講演会（ポスター）

（東京，2023年4月14日-16日）

木村新平。

心不全について、腎性貧血。

協和キリン社内研修会（口演）

（新潟，2023年5月31日）

木村新平。

心不全を見越した高血圧管理。

ARNI WEB Symposium（口演）

（南魚沼，2023年6月8日）

佐藤聡磨。

短期間で再発したACSに対する2次予防戦略。

中越心臓の会（口演）

（長岡，2023年6月20日）

木村新平。

魚沼基幹病院における循環器診療。

第34回魚沼 Common Disease 研究会（口演）

（南魚沼，2023年6月24日）

若杉嵩幸。

身近な息切れに潜む疾患の鑑別・治療について－循環器内科の立場から－

息切れをきたす疾患を考える会～呼吸器と循環器の立場から～（口演）

（南魚沼，2023年6月30日）

木村新平。

身近な息切れに潜む疾患の鑑別・治療について－循環器内科の立場から－

息切れをきたす疾患を考える会～呼吸器と循環器の立場から～（口演）

（南魚沼，2023年6月30日）

佐藤聡磨。

短期間で再発したACSに対する2次予防戦略。

第1回 Niigata Young cardiovascular consortium（口演）

（長岡，2023年7月7日）

木村新平。

令和時代の抗血小板療法。

第1回 Niigata Young cardiovascular consortium（口演）

（長岡，2023年7月7日）

木村新平.

妻有・魚沼エリアにおける循環器疾患の連携の取り組み.

十日町市中魚沼郡医師会学術講演会（口演）

（十日町，2023年7月18日）

木村新平.

心血管疾患に合併した高尿酸血症の治療について ～SURI への期待～

SURI web セミナー（口演）

（新潟，2023年8月31日）

木村新平.

見逃すわけにはいかない、その足の痛み.

研修医 STEP UP SEMINAR（口演）

（長岡，2023年9月8日）

若杉嵩幸.

Fantastic Four とは.

魚沼地区糖尿病先進研究会（口演）

（魚沼，2023年9月26日）

木村新平.

岡山県西部地区における心不全地域チーム医療の試み.

魚沼地区糖尿病先進研究会（口演）

（魚沼，2023年9月26日）

佐藤聡磨.

高出血リスクの ACS に DCS を選択した very short DPAT の 1 例.

第 62 回 CVIT 関東甲信越地方会（口演）

（東京，2023年10月14日）

柏木敬太、佐藤聡磨、若杉嵩幸、木村新平.

臨床上、肺炎が問題となった三尖弁の感染性心内膜炎、敗血症性肺塞栓症の若年例.

第 153 回信越内科地方会（口演）

（新潟，2023年10月21日）

木村新平.

循環器内科医からみた糖尿病の治療戦略 ～減塩・減量指導の現実～

GLP-1 Online Seminar（口演）

（長岡，2023年10月25日）

木村新平.

当院での心不全診療 ～心臓リハビリテーションを主軸に～

心疾患マネジメントとカリウム管理を考える会（口演）

（新潟，2023年11月27日）

木村新平.

心アミロイドーシスを地域でみつけるために ～連携の取り組み～

中越エリア心不全連携セミナー（口演）

（長岡，2023年11月30日）

木村新平.

当院における高齢循環器疾患の管理 ～持続可能な心リハチーム医療の重要性～
地域で診る高齢循環器疾患を考える会 長岡（口演）

（十日町，2023年12月18日）

木村新平.

当科の心不全治療、地域連携 ～持続可能な心リハチームの重要性～
塩沢医会（口演）

（南魚沼，2024年2月13日）

佐藤聡磨.

恥を晒して見せます！PCI 初心者の実情 ～1人でのACS対処の現状～
循環器スキルアップセミナー（口演）

（新潟，2024年2月16日）

佐藤聡磨.

Two Cases of Drug Coated Stent for High Bleeding Risk Patients.

日本循環器学会総会（口演）

（神戸，2024年3月8日）

論文(症例報告)

Ohara N, Hirota N, Takada T, Tani T, Terajima K, Ozawa T, Seki Y, Akiyama K, Yoneoka Y.

An 81-Year-Old Man Presenting with Asthenia and Anorexia After an Alcohol-Induced Hypoglycemic Coma and a Diagnosis of Central Adrenal Insufficiency: A Case Report.

American Journal of Case Reports. 24: e939840, 2023.

学会・研究会・講演会

安倍正夫、小原伸雅、山口征吾、高田俊範、伊藤竜.

COVID-19 罹患時に意識障害、低血圧、低血糖を来し、副腎クリーゼと診断され、副腎皮質ホルモン投与にて救命しえた 2 例.

第 152 回日本内科学会信越地方会 (口頭)

(長野県・松本市, 2023 年 5 月 20 日)

高澤遥子、小原伸雅、木村新平.

急性発症 1 型糖尿病・糖尿病ケトosis と冠攣縮性狭心症の併発が疑われた 1 例.

第 153 回日本内科学会信越地方会 (口頭)

(新潟市, 2023 年 10 月 21 日)

論文(原著)

Hara A, Wada T, Muso E, Maruyama S, Kato S, Furuichi K, Yoshimura K, Toyama T, Sakai N, Suzuki H, Tsukamoto T, Miyazaki M, Sato E, Abe M, Shibagaki Y, Narita I, Goto S, Sakamaki Y, Yokoyama H, Mori N, Tanaka S, Yuzawa Y, Hasegawa M, Matsubara T, Wada J, Tanabe K, Masutani K, Abe Y, Tsuruya K, Fujimoto S, Iwatsubo S, Tsuda A, Suzuki H, Kasuno K, Terada Y, Nakata T, Iino N, Sofue T, Miyata H, Nakano T, Ohtake T, Kobayashi S; LICENSE study group.

Effect of Low-Density Lipoprotein Apheresis on Quality of Life in Patients with Diabetes, Proteinuria, and Hypercholesterolemia.

Blood Purif 52(4): 373-381, 2023.

Kabasawa K, Ito Y, Iino N, Nakamura K, Sawada N, Tsugane S, Tanaka J, Narita I.

Chronic kidney disease awareness and its determinants in middle-aged and older Japanese adults: Observations from a 5-year follow-up of the Uonuma cohort study.

Nephrology (Carlton) 28(10): 567-575, 2023.

論文(総説)

酒卷裕一、山本卓、伊藤由美、成田一衛.

【Genetics in CKD】疾患編 Fabry 病

腎と透析 94(3): 424-429, 2023. (補遺)

論文(症例報告)

酒卷裕一、高橋恵実、梨本友美、吉田栞、羽深将人、小川麻、本間則行.

コロナ禍中の当院腹膜透析患者数の減少.

腎と透析 95 (別冊) : 172-173, 2023.

酒卷裕一、桜沢千尋、田代啓太、羽深将人、小川麻.

HIF-PH 阻害薬への再切替後に深部静脈血栓症・肺塞栓症を合併した腹膜透析患者の1例.

新潟県立新発田病院医誌 29(1): 6-9, 2023.

学会・研究会・講演会

石黒恵子、佐藤香穂、逸見太郎、井口昭、山崎肇、鈴木健志。

銅欠乏症を合併し、診断に苦慮したセフトリアキソン脳症の維持透析患者の一例。

第 65 回新潟透析医学会学術集会（口演）

（新潟，2023 年 4 月 23 日）

飯野則昭。

魚沼基幹病院は、地域の医療ニーズに応えられているか？

三木会学術講演会（口演）

（南魚沼，2023 年 5 月 18 日）

目黒太一、酒巻裕一、及川千尋、須藤真則、羽深将人、小川麻、牧野真人、伊藤聡、成田一衛。

アザチオプリンで薬剤熱を生じた顕微鏡的多発血管炎維持期の 1 例。

第 152 回日本内科学会信越地方会（口演）

（松本，2023 年 5 月 20 日）

蒲澤佳子、伊藤由美、飯野則昭、成田一衛。

中高年における CKD 自覚とその予測因子。

第 66 回日本腎臓学会学術総会（口演）

（横浜，2023 年 6 月 9 日-11 日）

酒巻裕一、及川千尋、田代啓太、羽深将人、小川麻、山本卓、丸山弘樹、成田一衛。

ロキサデュスタットへの再切替後に深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症を合併した腹膜透析の 1 例。

第 68 回日本透析医学会学術集会・総会（口演）

（神戸，2023 年 6 月 16 日-18 日）

田村匠、酒巻裕一、及川千尋、鷺山雄三、羽深将人、山本卓、成田一衛。

メトホルミン関連乳酸アシドーシスによる多臓器不全と診断し血液透析にて救命した 1 例。

第 68 回日本透析医学会学術集会・総会（ポスター）

（神戸，2023 年 6 月 16 日-18 日）

桜沢千尋、羽深将人、酒巻裕一、小川麻、山本卓、成田一衛。

カルバマゼピン中毒による多臓器不全に対して集学的血液浄化療法で救命し得た 1 例。

第 68 回日本透析医学会学術集会・総会（口演）

（神戸，2023 年 6 月 16 日-18 日）

羽深将人、及川千尋、酒巻裕一、小川麻、山本卓、成田一衛。

腹膜透析導入時に腹膜にアミロイド沈着を認めた全身型 AA アミロイドーシスの 1 例。

第 68 回日本透析医学会学術集会・総会（口演）

（神戸，2023 年 6 月 16 日-18 日）

藁谷友、羽深将人、及川千尋、酒巻裕一、小川麻、成田一衛。

小脳脳幹型進行性多巣性白質脳症を呈した腹膜透析患者の 1 例。

第 68 回日本透析医学会学術集会・総会（口演）

（神戸，2023 年 6 月 16 日-18 日）

酒巻裕一.

実臨床(HIF-PH 阻害薬) から考察する腎性貧血治療の現状・課題 (PD/ND)

新潟県 CKD 治療連携フォーラム 2023 (口演)

(新潟, 2023 年 6 月 22 日)

酒巻裕一.

在宅で診る腎不全～腹膜透析の実践～ 新潟県新発田地域における腹膜透析治療の実状と、地域医療機関との連携.

第 5 回日本在宅医療連合学会大会 (口演: パネルディスカッション)

(新潟, 2023 年 6 月 24 日-25 日)

飯野則昭.

多職種で支える透析医療.

第 41 回魚沼透析セミナー (口演)

(魚沼, 2023 年 9 月 14 日)

石黒恵子、吉澤優太、甲田亮、酒巻裕一、今井直史、伊藤由美、飯野則昭、成田一衛.

ネフローゼ症候群を呈し完全寛解に至らなかった Proliferative glomerulonephritis with monoclonal immunoglobulin deposits の 1 例.

第 53 回日本腎臓学会東部学術大会 (口演)

(仙台, 2023 年 9 月 16 日-17 日)

酒巻裕一、小川麻、本間則行、山本卓、成田一衛.

急性血液浄化療法を要した pseudo-renal failure の 1 例.

第 53 回日本腎臓学会東部学術大会 (口演)

(仙台, 2023 年 9 月 16 日-17 日)

羽深将人、及川千尋、須藤真則、酒巻裕一、小川麻、山本卓、伊藤由美、今井直史、伊藤聡、成田一衛.

顕微鏡的多発血管炎(MPA)に伴う急速進行性糸球体腎炎に対して血漿交換が有効だった 2 例.

第 53 回日本腎臓学会東部学術大会 (口演)

(仙台, 2023 年 9 月 16 日-17 日)

永野敦嗣.

当院の CKD 診療の取り組み.

魚沼地区糖尿病先進治療研究会 2023 (口演)

(魚沼, 2023 年 9 月 26 日)

酒巻裕一.

高カルシウム血症をかんがえてみる.

JSUS Advanced ~Jin Skill Up Seminar~ (口演)

(新潟, 2023 年 10 月 17 日)

石黒恵子、酒巻裕一、永野敦嗣、今井直史、伊藤由美、飯野則昭、成田一衛.

治療に難渋したステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の 1 例.

第 153 回日本内科学会信越地方会 (口演)

(新潟, 2023 年 10 月 21 日)

金子明里、石黒恵子、酒巻裕一、永野敦嗣、伊藤竜、小林大介、飯野則昭、成田一衛.

大動脈炎を合併した再発性多発軟骨炎の1例.

第153回日本内科学会信越地方会（口演）

（新潟，2023年10月21日）

酒巻裕一、須藤真則、羽深将人、小川麻、伊藤聡、成田一衛.

重度の口腔内潰瘍を主症状としたANCA関連血管炎(AAV)の1例.

第153回日本内科学会信越地方会（口演）

（新潟，2023年10月21日）

清水優、羽深将人、桜沢千尋、酒巻裕一、小川麻、伊藤聡、成田一衛.

急性循環不全を呈した全身性強皮症の1剖検例.

第153回日本内科学会信越地方会（口演）

（新潟，2023年10月21日）

吉澤優太、大塚忠司、山本卓、永野敦嗣、甲田亮、飯野則昭、宮崎慧、若松拓也、飯田倫理、青柳竜治、伊藤徹、
亀田茂美、成田一衛.

シングルルーメンカテーテルの有用性について.

Niigata Blood Purification Conference2023（口演）

（長岡，2023年12月3日）

受賞

石黒恵子：優秀演題賞

ネフローゼ症候群を呈し完全寛解に至らなかった Proliferative glomerulonephritis with monoclonal

immunoglobulin deposits の1例.

（第53回日本腎臓学会東部学術大会，2023年9月）

著書など

高田俊範

肺胞蛋白症

今日の治療指針, 322-323 頁, 医学書院, 2024.

学会・研究会・講演会

Toshinori Takada, Nakamura Tomohiko, Nishizawa Tomotaka, Yamakawa Hideaki, Sato Shintaro, Akasaka Keiichi, Ami Aoki, Kenjiro Shima.

Cytokine profiles associated with disease severity and prognosis of autoimmune pulmonary alveolar proteinosis.

ATS 2023 international conference (ポスター) (ワシントン DC, 2023 年 5 月 22 日)

島賢治郎、高田俊範、菊地利明、白井雄也、岡田随象、中田光.

自己免疫性肺胞蛋白症の家系内発症例.

第 63 回日本呼吸器学会学術講演会 (ポスター) (東京, 2023 年 4 月 28 日)

高田俊範、中村友彦、西沢知剛、山川英晃、佐藤新太郎、赤坂圭一、青木亜美、島賢治郎.

自己免疫性肺胞蛋白症の重症度および予後と関連するサイトカインプロファイル.

第 63 回日本呼吸器学会学術講演会 (ミニシンポジウム) (東京, 2023 年 4 月 30 日)

大橋和政、伊藤竜、高田俊範、関 義信.

骨髄異形成症候群より発症し病理解剖を行った続発性肺胞蛋白症の一例.

第 90 回呼吸器合同北陸地方会 (web) (新潟, 2023 年 5 月 28 日)

堀好寿、高田俊範、黒川允、塚田弘樹、吉嶺文俊.

過敏性肺臓炎との鑑別に苦慮した自己免疫性肺胞蛋白症の一例.

第 91 回呼吸器合同北陸地方 (口演) (富山, 2023 年 10 月 14 日)

野川真登、伊藤竜、大橋和政、高田俊範.

抗 ARS 抗体と抗 MDA-5 抗体が同時陽性であった急速進行性間質性肺炎の 1 例.

第 153 回日本内科学会信越地方会 (口演) (新潟, 2023 年 10 月 21 日)

高田俊範

胸部単純レントゲンでどこまで読めるか?

十日町地域肺がん検討委員会 (口演) (十日町, 2024 年 3 月 8 日)

研究費(科学研究費)

高田俊範：分担 基盤研究費（C）20K08536 2020～2023 年度

肺 MAC 症におけるバイオマーカーCXCL10 の有用性について

高田俊範：分担 基盤研究費（C）20K08537 2020～2023 年度

血球吸着モデルを用いた LAM 患者におけるシロリムス最適薬用量決定法の提案

論文(原著)

Watanabe Y, Abe H, Kimura N, Arao Y, Ishikawa N, Maeda Y, Setsu T, Sakamaki A, Kamimura H, Yokoo T, Kamimura K, Tsuchiya A, Terai S.

Navitoclax improves acute-on-chronic liver failure by eliminating senescent cells in mice.

Hepatology Research 53(5): 460-472, 2023.

Kamimura K, Kanefuji T, Suda T, Yokoo T, Zhang G, Aoyagi Y, and Liu D.

Liver lobe-specific hydrodynamic gene delivery to baboons: A preclinical trial for hemophilia gene therapy.

Molecular Therapy Nucleic Acids 32: 903-913, 2023.

Kimura N, Takahashi K, Setsu T, Goto, S, Miida S, Takeda N, Kojima Y, Arao Y, Hayashi K, Sakai N, Watanabe Y, Abe H, Kamimura H, Sakamaki A, Yokoo T, Kamimura K, Tsuchiya A, Terai S.

Machine learning prediction model for treatment responders in patients with primary biliary cholangitis.

JGH Open 7(6): 431-438, 2023.

磯田広史、榎本大、高橋宏和、大野高嗣、井上泰輔、池上正、井出達也、徳本良雄、小川浩司、瀬戸山博子、内田義人、橋本まさみ、廣田健一、柿崎暁、立木佐知子、井上貴子、遠藤美月、島上哲朗、荒生祥尚、井上淳、末次淳、永田賢治、是永匡紹。

肝疾患診療拠点病院における肝炎医療コーディネーターの現状（第2報）

肝臓 64(10): 510-513, 2023.

廣田健一、井上貴子、小川浩司、荒生祥尚、遠藤美月、池上正、戸島洋貴、末次淳、柿崎暁、瀬戸山博子、榎本大、是永匡紹。

肝炎ウイルス陽性者対策が急がれる非肝臓専門科は？

肝臓 64(11): 587-589, 2023.

論文(総説)

Suda T, Yokoo T, Kanefuji T, Kamimura K, Zhang G, and Liu D.

Hydrodynamic Delivery: Characteristics, Applications, and Technological Advances.

Pharmaceutics 15(4): 1111, 2023.

論文(症例報告)

Miida S, Arao Y, Takeda N, Goto S, Kojima Y, Kimura N, Hayashi K, Tsuchiya A, Terai S.

A rare cause of esophageal stenosis: Compression due to a thoracic osteophyte.

DEN Open 4(1): e260, 2023.

学会・研究会・講演会

阿部聡司.

当院における肝細胞癌に対する動態追跡定位放射線療法 of 検討.

消化器病学会甲信越支部例会 (口演)

(朱鷺メッセ, 2023年6月3日)

Shu Goto, Yoshihisa Arao, Suguru Miida, Nobutaka Takeda, Yuichi Kojima, Naruhiro Kimura, Kazunao Hayashi, Atsunori Tsuchiya, Jun Sakata, Makoto Oishi, Yusuke Tani, Shoko Hongo, Hiroshi Shimizu, Shuji Terai.

A case of pancreatic tumor diagnosed as metastasis of a solitary fibrous tumor of the central nervous system causing obstructive jaundice.

第72回日本消化器病学会甲信越支部例会 (口演: 英語セッション)

(新潟, 2023年6月4日)

荒生祥尚, 酒井規裕, 薛徹, 渡邊雄介, 木村 成宏, 阿部寛幸, 坂牧僚, 上村博輝, 横尾健, 土屋淳紀, 上村顕也, 寺井崇二.

多職種 of 肝炎医療コーディネーターとの連携による, 院内におけるC型肝炎患者の拾い上げと紹介率向上の効果.

JDDW2023 (デジタルポスター)

(神戸, 2023年11月2日-5日)

酒井規裕, 荒生祥尚, 薛徹, 寺井崇二.

肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業に対する当院での取り組みについて.

JDDW2023 (デジタルポスター)

(神戸, 2023年11月2日-5日)

Suguru Miida, Yoshihisa Arao, Shu Goto, Nobutaka Takeda, Yuichi Kojima, Naruhiro Kimura, Kazunao Hayashi, Atsunori Tsuchiya, Shuji Terai.

A rare cause of esophageal stenosis: Compression due to a thoracic osteophyte.

第73回日本消化器病学会甲信越支部例会 (口演: 英語セッション)

(新潟, 2023年12月4日-5日)

Satomi Sakamoto, Takeshi Suda, Gen Kawaguchi, Yoichi Ajioka, Kozue Ito, Goh Hasegawa, Youhei Koseki,

Moeno Sugita, Yoshihisa Arao, Satoshi Abe.

Comprehensive care for a case of neuroendocrine carcinoma of the stomach.

第73回日本消化器病学会甲信越支部例会 (口演: 英語セッション)

(新潟, 2023年12月4日-5日)

阿部聡司.

よくわかる肝臓健康講座.

楽語い講座 (講演)

(小出病院, 2024年1月24日)

研究費(科学研究費)

荒生祥尚：代表 若手研究 20K16983 2020～2023 年度

非アルコール性脂肪肝炎における肝細胞内のミトコンドリア DNA コピー数と機能評価

論文(原著)

Hatano Y, Ishihara T, Hirokawa S, Onodera O.

Machine learning approach for the prediction of age-specific probability of SCA3 and DRPLA by survival curve analysis.
Neurology: Genetics 9(3): e200075, 2023.

Hatano Y, Ishihara T, Onodera O.

Accuracy of a machine learning method based on structural and locational information from AlphaFold2 for predicting the pathogenicity of TARDBP and FUS gene variants in ALS.
BMC bioinformatics 24(1): 206, 2023.

Harada R, Lerdsirisuk P, Shimizu Y, Yokoyama Y, Du Y, Kudo K, Ezura M, Ishikawa Y, Iwata R, Shidahara M, Ishiki A, Kikuchi A, Hatano Y, Ishihara T, Onodera O, Iwasaki Y, Yoshida M, Taki Y, Arai H, Kudo Y, Yanai K, Furumoto S, Okamura N.

Preclinical characterization of the Tau PET Tracer [18F] SNFT-1: comparison of tau PET tracers.
Journal of Nuclear Medicine 64(9): 1495-1501, 2023.

著書など

島野雄也、石原智彦、小野寺理。

研究手法 MOVA: AlphaFold2 によるミスセンスバリエントの効果予測。
遺伝子医学 47 号, 88-92 頁, メディカルドゥ, 2024.

学会・研究会・講演会

Hatano Y, Ishihara T, Hirokawa S, Onodera O.

Study of penetrance of SCA6.

第 64 回日本神経学会学術大会 (ポスター)

(千葉, 2023 年 5 月 31 日)

研究費(科学研究費)

島野雄也 : 代表 若手研究 23K14771 2023~2025 年度

ALS 関連遺伝子多型の、AI による病原性の重み付けによる、予後別層別化の試み

論文(原著)

Fukui N, Watanabe Y, Motegi T, Hashijiri K, Ogawa M, Egawa J, Enomoto T, Someya T.

Relationships among autistic traits, depression, anxiety, and maternal–infant bonding in postpartum women.
BMC Psychiatry 23(1): 463, 2023.

Zain E, Fukui N, Watanabe Y, Hashijiri K, Motegi T, Ogawa M, Egawa J, Someya T.

High care and low overprotection from both paternal and maternal parents predict a secure attachment style with a partner among perinatal Japanese women.
Sci Rep 13(1): 15684, 2023.

Zain E, Fukui N, Watanabe Y, Hashijiri K, Motegi T, Ogawa M, Egawa J, Nishijima K, Someya T.

The three-factor structure of the Autism-Spectrum Quotient Japanese version in pregnant women.
Front Psychiatry 14: 1275043, 2023.

Yoshinaga K, Egawa J, Watanabe Y, Kasahara H, Sugimoto A, Someya T.

Usefulness of the autism spectrum quotient (AQ) in screening for autism spectrum disorder and social communication disorder.
BMC Psychiatry 23(1): 831, 2023.

Arinami H, Suzuki Y, Watanabe Y, Tajiri M, Tsuneyama N, Someya T.

Association between insulin resistance and serum insulin-like growth factor 1 levels in patients with non-remitting major depressive disorder.
J Affect Disord 344: 612-616, 2024.

Lo T, Kushima I, Kimura H, Aleksic B, Okada T, Kato H, Inada T, Nawa Y, Torii Y, Yamamoto M, Kimura R, Funabiki Y, Kosaka H, Numata S, Kasai K, Sasaki T, Yokoyama S, Munesue T, Hashimoto R, Yasuda Y, Fujimoto M, Usami M, Itokawa M, Arai M, Ohi K, Someya T, Watanabe Y, Egawa J, Takahashi T, Suzuki M, Yamasue H, Iwata N, Ikeda M, Ozaki N.

Association between copy number variations in parkin (PRKN) and schizophrenia and autism spectrum disorder: A case-control study.
Neuropsychopharmacol Rep 44(1): 42-50, 2024.

論文(総説)

渡部雄一郎、大竹将貴、染矢俊幸.

食事・栄養と統合失調症.

精神科 42(4): 463-469, 2023.

森川亮、渡部雄一郎、染矢俊幸.

統合失調症の稀なりスク遺伝子変異の探索.

日本生物学的精神医学会誌 34(4): 145-150, 2023.

学会・研究会・講演会

橋尻洸陽、渡部雄一郎、福井直樹、茂木崇治、小川真貴、江川純、榎本隆之、染矢俊幸.

クラスター分析を用いた Mother-to-Infant Bonding Scale カットオフ値の推定.

第 33 回新潟周産母子研究会 (口演)

(新潟, 2023 年 7 月 22 日)

福井直樹、渡部雄一郎、橋尻洸陽、茂木崇治、小川真貴、Zain E、江川純、染矢俊幸.

妊産婦における Parental Bonding Instrument の因子構造.

第 42 回日本精神科診断学会 (ポスター)

(富山, 2023 年 9 月 23 日)

大竹将貴、小野信、渡部雄一郎、熊谷航一郎、松澤幸治、笠原寛之、大竹雅也、染矢俊幸.

統合失調症入院患者における残存歯数と body mass index の関連.

第 33 回日本臨床精神神経薬理学会 (ポスター)

(松山, 2023 年 9 月 28 日)

大竹雅也、大竹将貴、小野信、渡部雄一郎、熊谷航一郎、松澤幸治、笠原寛之、染矢俊幸.

統合失調症入院患者における口腔機能低下.

第 33 回日本臨床精神神経薬理学会 (ポスター)

(松山, 2023 年 9 月 28 日)

森川亮、西岡将基、渡部雄一郎、井桁裕文、高野紗都子、加藤忠史、染矢俊幸.

日本人統合失調症患者・両親 60 家系の全エクソームシーケンスによるデノボ変異の同定.

第 45 回日本生物学的精神医学会 (ポスター)

(名護, 2023 年 11 月 6 日)

高野紗都子、森川亮、渡部雄一郎、染矢俊幸.

統合失調症多発罹患者家系の全エクソームシーケンス.

第 45 回日本生物学的精神医学会 (ポスター)

(名護, 2023 年 11 月 6 日)

薄田芳裕、渡部雄一郎、坪谷隆介.

患者の状態に応じた適切な修正型電気痙攣療法の実施頻度についての検討.

第 26 回新潟総合病院精神医学研究会 (口演)

(新潟, 2024 年 1 月 27 日)

受賞

渡部雄一郎：PCN Reviewer Awards 2022

(日本精神神経学会，2023年6月)

研究費(その他)

大竹将貴、小野信、渡部雄一郎、染矢俊幸：令和5年度新潟市医師会地域医療研究助成 2023年度
統合失調症入院患者における口腔機能と健康・栄養状態に関する包括的解析。

小児科

論文(症例報告)

加藤夏生, 鈴木博, 田所宏啓, 佐藤大祐, 田嶋直哉, 小嶋絹子, 谷卓.

意識消失を契機に脳波異常を指摘された QT 延長症候群 2 型の 1 例.

長岡赤十字病院医学雑誌 36(1): 51-56, 2023.

学会・研究会・講演会

田嶋直哉, 海津勇希, 桜沢有, 原田瑞生, 小嶋絹子, 鈴木博.

抗原特異的 IgE 抗体検査強陽性で食物経口負荷試験を行った食物アレルギーの症例について.

第 237 回日本小児科学会新潟地方会 (口演)

(新潟, 2023 年 5 月 13 日)

桑原健輔, 相田麻依, 原田瑞生, 桑原春洋, 田嶋直哉, 鈴木博.

肺炎球菌による反復性髄膜炎の 1 例.

2023 年度第一回魚沼地域小児科医の会 (口演)

(新潟, 2023 年 6 月 28 日)

鈴木博, 小澤淳一.

学校心臓検診における QT 延長者や QT 延長症候群患者の成長に伴う QTc の変化.

第 59 回日本小児循環器学会学術集会 (口演)

(横浜, 2023 年 7 月 6 日-8 日)

相田麻依, 小嶋絹子, 桑原健輔, 原田瑞生, 桑原春洋, 田嶋直哉, 鈴木博.

下大静脈弁残存によりチアノーゼが遷延した新生児の一例.

第 74 回北日本小児科学会 (口演)

(新潟, 2023 年 9 月 8 日-9 日)

桑原春洋, 相田麻依, 桑原健輔, 原田瑞生, 田嶋直哉, 鈴木博.

胎児期腎盂拡大症例における出生後短期予後の検討.

第 74 回北日本小児科学会 (口演)

(新潟, 2023 年 9 月 9 日-10 日)

鈴木博, 沼野藤人, 小澤淳一.

QT 延長症候群診断の心拍補正 QT 間隔のカットオフ値と精度は成長期で変化する.

第 40 回新潟小児循環器懇話会 (口演)

(新潟, 2023 年 10 月 14 日)

桑原春洋, 楡井淳, 庄司圭介, 小林玲.

極低出生体重児における NICU 入院中の体格の平均増加量と 3 歳時発達との関連.

第 67 回日本新生児成育医学会学術集会 (口演)

(横浜, 2023 年 11 月 2 日-3 日)

鈴木博、沼野藤人、小澤淳一、渡邊健一。

QT 延長症候群診断の心拍補正 QT 間隔のカットオフ値と精度は成長期で変化する。

第 27 回日本小児心電学会学術集会（口演）

（広島，2023 年 12 月 8 日-9 日）

相田麻依、阿部忠朗、塚田正範、額賀俊介、馬場恵史、小澤淳一、沼野藤人。

GORE Cardioform ASD Occluder 48mm を wire assist で留置した large ASD の一例。

第 34 回 JCIC 学術集会（ポスター）

（名古屋，2024 年 1 月 25 日-27 日）

桑原健輔、相田麻依、林敬淳、原田瑞生、桑原春洋、田嶋直哉、鈴木博。

紫斑を伴わなかった IgA 血管炎の 1 例。

第 216 回中越小児臨床検討会（口演）

（新潟，2024 年 2 月 25 日）

桑原春洋。

魚沼基幹病院地域周産期母子医療センターの紹介。

令和 5 年度 NICU 入退院支援情報交換会（口演）

（新潟，2024 年 3 月 6 日）

Hiroshi Suzuki, Junichi Ozawa, Fujito Numano.

Usefulness of Corrected QT Interval for Diagnosing Long QT Syndrome may be Different between Childhood and Adolescence.

第 88 回日本循環器学会学術集会（ポスター）

（神戸，2024 年 3 月 8 日-10 日）

研究費(科学研究費)

鈴木博：代表 基盤研究費（C）22K07840 2022～2025 年度

経年変化と T 波形評価に注目した成長期 QT 延長症候群の新たな診断基準の確立

消化器外科・一般外科(乳腺外科)

論文(症例報告)

Miwa Y, Sato Y, Hirano K, Sunami E, Takahashi M, Kosugi SI, Suda T, Hasegawa G.

An adenocarcinoma in an inverted Meckel's diverticulum with intussusception.

Surg Case Rep 9: 95, 2023.

佐藤洋、三輪矢真人、高橋元子、平野謙一郎、角南栄二、小杉伸一.

直腸穿孔後の遅発性瘻孔に対して over the scope clip (OTSC) system による閉鎖が有効であった1例.

臨床外科 78(9): 1144-1148, 2023.

学会・研究会・講演会

角南栄二、小杉伸一、平野謙一郎、佐藤洋、高橋元子.

Stage 4 進行乳癌集学的治療において、Abemacicrib が奏功した1例.

第31回日本乳癌学会学術集会 (ポスター)

(横浜, 2023年6月29日-7月1日)

佐藤洋、小杉伸一、廣井颯、高橋元子、平野謙一郎、角南栄二.

局所陰圧閉鎖療法施行中の肉芽増生に対する ICG 蛍光観察の経験.

第6回蛍光ガイド手術研究会 (シンポジウム)

(名古屋, 2023年9月1日-2日)

逸見華子、佐藤洋、廣井颯、平野謙一郎、角南栄二、小杉伸一.

ICG 蛍光法で腸間膜裂傷部位の腸管血流を確認し腸切除を回避した腹部鈍的外傷の1例.

第85回日本臨床外科学会総会 (口演)

(岡山, 2023年11月16日-18日)

角南栄二、小杉伸一、平野謙一郎、佐藤洋、高橋元子、廣井颯、逸見華子.

乳頭乳輪部に発生した Bowen 病の1例.

第85回日本臨床外科学会総会 (ポスター)

(岡山, 2023年11月16日-18日)

廣井颯、角南栄二、高橋元子、佐藤洋、平野謙一郎、小杉伸一.

大網小網裂孔網嚢ヘルニアの1例.

第85回日本臨床外科学会総会 (ポスター)

(岡山, 2023年11月16日-18日)

角南栄二、小杉伸一、平野謙一郎、佐藤洋、高橋元子、廣井颯.

2年7ヶ月間に特発性大腸穿孔を繰り返し発症した1例.

第60回日本腹部救急医学会総会 (口演)

(小倉, 2024年3月11日-12日)

研究費(科学研究費)

佐藤洋：代表 若手研究 22K16622 2022～2024 年度

局所陰圧閉鎖療法を用いた手術部位感染予防における治療指標の探索

小杉伸一：分担 基盤研究費 (C) 22K08840 2022～2024 年度

食道癌術前化学療法の治療効果予測を目指した NQO1 遺伝子多型の臨床的意義の解明

小杉伸一：分担 基盤研究費 (C) 22K08866 2022～2024 年度

放射線画像・遺伝子解析を統合した食道癌術前治療後の癌遺残形式予測モデルの開発

学会・研究会・講演会

瀬崎遼、橋本毅久。

CA19-9 高値を呈した肺葉内肺分画症に対して胸腔鏡下分画肺切除を施行した 1 例。

第 40 回日本呼吸器外科学術集会（ポスター）

（新潟，2023 年 7 月 13 日-14 日）

瀬崎遼、橋本毅久。

右 S6 区域切除後の中間幹瘻孔に対して Dumon stent 挿入、自己心膜パッチ縫着で治癒した 1 例。

第 40 回日本呼吸器外科学術集会（ポスター）

（新潟，2023 年 7 月 13 日-14 日）

橋本毅久。

当院での肺区域切除術。

第 11 回新潟県呼吸器外科手術手技研究会（口演）

（長岡，2023 年 11 月 18 日）

論文(原著)

Ishikawa Y, Ohashi M, Hirano T, Matsuda M, Akabane T, Kanno H, Hashimoto K, Handa K, Aizawa T, Suzuki T, Shimamura Y, Watanabe K.

Mid- to Long-Term Outcomes After Resection of Thoracic Dumbbell Tumors Managed by Laminectomy and Unilateral Total Facetectomy Without Instrumented Fusion.

Global Spine J 13(3): 771-780, 2023.

Katsumi K, Watanabe K, Yamazaki A, Hirano T, Ohashi M, Mizouchi T, Sato M, Sekimoto H, Izumi T, Shibuya Y, Kawashima H.

Predictive biomarkers of ossification progression and bone metabolism dynamics in patients with cervical ossification of the posterior longitudinal ligament.

Eur Spine J 32(4): 1282-1290, 2023.

Watanabe K, Ohashi M, Sekimoto H, Tashi H, Shibuya Y, Makino T, Hasegawa K, Hirano T.

Evaluating flexibility and predicting curve correction using fulcrum-bending radiographs in Lenke type 2 adolescent idiopathic scoliosis.

J Orthop Sci 28(3): 529-535, 2023.

Ohashi M, Watanabe K, Hirano T, Hasegawa K, Katsumi K, Tashi H, Shibuya Y, Makino T, Kawashima H.

Marriage and childbirth of patients who were surgically and non-surgically treated for adolescent idiopathic scoliosis: a survey at the age of 30 years or older.

Spine Deform 11(3): 597-603, 2023.

Watanabe T, Mera H, Seino Y.

Identifying nerve to vastus medialis at adductor canal entry.

J Anesth 37: 813-814, 2023.

Watanabe K, Ohashi M, Tashi H, Shibuya Y, Makino T, Hasegawa K, Hirano T.

Axial Neck-Shoulder Pain After Posterior Correction and Fusion for Adolescent Idiopathic Scoliosis With Structural Thoracic Curve: Does Cranial Fusion Level Affect Neck Symptoms?

Clin Spine Surg 36(7): E311-316, 2023.

Tanaka Y, Hirano T, Ohashi M, Tashi H, Makino T, Minato K, Kawashima H, Kakita A, Hasegawa K, Watanabe K.

Usefulness and limitations of intraoperative pathological diagnosis using frozen sections for spinal cord tumors.

J Orthop Sci doi: 10.1016/j.jos.2023.08.011., 2023.

澤上公彦、渡辺慶、長谷川和宏、山本智章、島倉剛俊、大橋正幸、庄司寛和、溝内龍樹、田中裕貴、瀬川博之、平野徹、川島寛之、遠藤直人、高橋榮明。

骨粗鬆症を伴う脊椎に対するテリパラチド補助療法 皮質骨からみた長期投与の意義。

J Spine Res 14(9): 1197-1203, 2023.

Sato M, Ohashi M, Tashi H, Makino T, Shibuya Y, Hirano T, Watanabe K.

Association of success of brace treatment and various aspects of in-brace correction in patients with adolescent idiopathic scoliosis.

J Orthop Sci 28(6): 1221-1226, 2023.

Kusabe Y, Hirano T, Kikuchi R, Ohashi M, Tashi H, Shibuya Y, Makino T, Hasegawa K, Tanabe N, Watanabe K.

Characteristics of back pain in patients with adolescent idiopathic scoliosis: Considerations in candidates for corrective surgery.

J Orthop Sci doi: 10.1016/j.jos.2023.11.014., 2023.

Noto Y, Endo Y, Ohashi M, Hirano T, Kuramoto T, Chida K, Watanabe K.

Usefulness of the spectral shaping dual-source computed tomography imaging technique in posterior corrective fusion for adolescent idiopathic scoliosis.

Eur Spine J 33(2): 706-712, 2024.

論文(総説)

Wakitani S, Mera H, Nakamura N, Gobbi A.

Review of Caplan on cell-based therapeutic technology using Mesenchymal Stem Cells.

J ISAKOS 9(3): 426-430, 2023.

目良恒

再生医療・幹細胞研究が切り拓く関節治療。

生物工学会誌 101(11): 595, 2023.

論文(症例報告)

生越章、川島寛之。

周囲二重結紮法で外科的治療した胸壁動静脈奇形の1例。

形成外科 67(2): 131-136, 2024.

学会・研究会・講演会

荒引剛、平野徹。

腰部脊柱管狭窄に対する片側進入両側除圧の術後成績の検討。

第33回東北脊椎外科研究会（口演）（補遺）

（仙台，2023年1月21日）

平野徹、荒引剛、勝見敬一、若杉正嗣。

高齢者腰椎変性疾患手術はポリファーマシーの割合を有意に低下させる。

第52回日本脊椎脊髄病学会（口演）

（札幌，2023年4月13-15日）

井瀨慎弥。

急性期病院の科科連携（周術期管理）

急性期病院の科科連携 BSPN（講演）

（新潟，2023年4月15日）

平野徹、荒引剛、生越章、白旗正幸、目良恒、上村一成、井瀨慎弥、川崎謙哉、勝見敬一、若杉正嗣。

高齢者腰椎変性疾患手術後の患者満足度。

第96回日本整形外科学会学術総会（ポスター）

（横浜，2023年5月11日-14日）

井瀨慎弥。

急性期病院の科科連携（周術期管理）

急性期病院の科科連携（講演）

（東京，2023年5月20日）

井瀨慎弥。

魚沼基幹病院での大腿骨近位部骨折に対する骨折リエゾンと精神科との科科連携。

骨粗鬆症サポーター研修会（講演）

（新潟，2023年5月21日）

井瀨慎弥。

当院でのテリパラチド週2回製剤の使用経験と今後の展望。

第3回みなとまち新潟股関節セミナー（講演）

（新潟，2023年6月22日）

井瀨慎弥。

魚沼基幹病院での大腿骨近位部骨折に対する骨折リエゾンと精神科との科科連携。

精神科との科科連携（講演）

（新潟，2023年7月6日）

生越章、川島寛之、有泉高志、村山雄大、大池直樹。

神経線維腫症1型に併発したびまん性神経線維腫に対する手術治療。

第56回骨軟部腫瘍学術集会（ポスター）

（東京，2023年7月13日-14日）

生越章.

整形外科領域と血管腫血管奇形 ー骨関節の問題点と対応法ー
第 19 回血管腫・血管奇形学会（口演）

（名古屋，2023 年 9 月 7 日-8 日）

井瀧慎弥.

魚沼基幹病院での小児大腿骨骨幹部骨折の治療方針と術後成績.
新潟股関節研究会（発表）

（新潟，2023 年 9 月 9 日）

白旗正幸、谷藤理.

術中 O-arm 使用下で骨接合術を施行した，足根骨骨折の 2 例.
第 48 回日本足の外科学会学術集会（ポスター）

（大阪，2023 年 10 月 26 日-27 日）

井瀧慎弥.

- ・ FLS をきっかけとした科科連携 ～当院の総合診療科との事例を踏まえて～
- ・ 動画による患者/家族に対する啓発活動

急性期病院の科科連②（講演）

（東京，2023 年 11 月 8 日）

目良恒.

膝関節診療の舞台ウラ；経験症例からの学び.
久光製薬ジクトルテープ 1 周年記念講演会 in 魚沼（講演）

（十日町，2024 年 1 月 23 日）

生越章.

肉腫に対する外科治療.
第 7 回日本サルコーマ治療研究会学術集会（口演）

（名古屋，2024 年 2 月 9 日-10 日）

井瀧慎弥.

神経障害性疼痛と骨粗鬆症のマネジメント.
三木会（講演）

（新潟，2024 年 2 月 16 日）

研究費(科学研究費)

生越章：代表 基盤研究費（C）21K09197 2021～2024 年度

良悪性中間群骨軟部腫瘍における免疫環境の解析と新規治療法の開発

平野徹：代表 基盤研究費（C）21K09222 2021～2023 年度

小児腰痛の心理社会的要因および生活の質との関連性に関する研究

目良恒：代表 基盤研究費（C）21K09245 2021～2023 年度

関節内の細胞外小胞体による局所恒常性維持の機序解明

目良恒：分担 基盤研究費（C）19K05954 2019～2023 年度

リガンド非依存的 GPCR 活性化による破骨細胞の分化・機能制御の機構解明

論文(原著)

米岡有一郎.

初診時の低ナトリウム血症.

日本内分泌学会雑誌 99(suppl): 105-109, 2023.

米岡有一郎、黒岩巖志、大石誠、棗田学、鈴木博、池田幸恵、関泰弘、秋山克彦.

COVID-19 禍における小児脳腫瘍患者の終末期在宅緩和医療.

小児の脳神経 49 (1): 1-8, 2024.

論文(症例報告)

Tsukamoto Y, Natsumeda M, Takahashi H, Ueno A, Sakai K, Shida K, Seto H, Saito T, Shibuma S, Nakayama Y, Tanaka Y, Nakano T, Ohta A, Maruyama K, Okada M, Eda T, Seki Y, Yoneoka Y, Shimizu H, Okamoto K, Kakita A, Oishi M.

Clinical, imaging, and molecular features of radiation-induced glioblastomas developing more than 20 years after radiation therapy for intracranial germinomatous germ cell tumor: illustrative cases.

J Neurosurg Case Lessons 6(16):CASE23361, 2023.

学会・研究会・講演会

米岡有一郎.

初診時の低ナトリウム (Na) 血症.

第 98 回日本内分泌学会学術総会 (ポスター)

(名古屋国際会議場, 2023 年 6 月 1 日-3 日)

米岡有一郎、関泰弘、秋山克彦.

右外傷性中耳髄液漏 (外傷性髄液耳漏) .

第 51 回日本小児神経外科学会 (口演)

(ライトキューブ宇都宮, 2023 年 6 月 9 日-10 日)

米岡有一郎、高橋陽彦、関泰弘.

80 代の破裂脳動脈瘤 Clipping 術.

第 80 回新潟脳卒中研究会 (口演)

(村上総合病院, 2023 年 7 月 15 日)

米岡有一郎.

腫瘍・下垂体境界を意識した内視鏡的下垂体神経内分泌腫瘍摘出術 —効果的な綿片使用法—

第 28 回脳腫瘍の外科学会 (口演)

(出島メッセ長崎, 2023 年 9 月 29 日-30 日)

米岡有一郎、関泰弘、秋山克彦。

右外傷性中耳髄液漏（外傷性髄液耳漏）。

第 82 回日本脳神経外科学会総会（ポスター）

（パシフィコ横浜，2023 年 10 月 25 日-27 日）

米岡有一郎。

腫瘍-下垂体境界を意識した下垂体神経内分泌腫瘍摘出術。

第 30 回日本神経内視鏡学会（口演）

（ウイנקあいち，2023 年 11 月 16 日-17 日）

米岡有一郎、高橋陽彦、関泰弘。

高齢者破裂脳動脈瘤 Clipping に対する外減圧術の意義。

第 77 回新潟脳神経外科懇話会（口演）

（新潟大学中田記念ホール，2023 年 12 月 9 日）

米岡有一郎。

腫瘍-下垂体境界を意識した内視鏡的下垂体神経内分泌腫瘍摘出術 —効果的な綿片使用法—

第 34 回日本間脳下垂体腫瘍学会（口演）

（ウイנקあいち，2024 年 2 月 16 日-17 日）

米岡有一郎。

良好な経過を得た両側固定性瞳孔散大の急性硬膜下血腫症例。

第 47 回日本脳神経外傷学会（ポスター）

（九段会館テラス，2024 年 3 月 1 日-2 日）

米岡有一郎。

高齢者破裂脳動脈瘤クリッピング術における減圧開頭の予後に与える影響。

第 53 回日本脳卒中の外科学会（口演）

（パシフィコ横浜，2024 年 3 月 7 日-9 日）

論文(原著)

創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン策定委員会(創傷一般グループ): 茂木精一郎、有馬豪、一木稔生、植田郁子、岡田克之、金子栄、加納宏行、倉繁祐太、清水晶、澄川靖之、高橋秀典、玉城善史郎、徳山道生、波部幸司、藤田英樹、浅野善英、中西健史、藤原浩、前川武雄、吉野雄一郎、長谷川稔、藤本学、立花隆夫。

創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン(2023)-1 創傷一般(第3版)

日本皮膚科学会雑誌 133(11): 2251-2564, 2023.

創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン策定委員会(褥瘡グループ): 藤原浩、入澤亮吉、大塚正樹、加古智子、加持達弥、門野岳史、古賀文二、廣崎邦紀、野北陽子、浅野善英、中西健史、前川武雄、茂木精一郎、吉野雄一郎、長谷川稔、藤本学、立花隆夫。

創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン(2023)-2 褥瘡診療ガイドライン(第3版)

日本皮膚科学会雑誌 133(12): 2735-2797, 2023.

創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン策定委員会(糖尿病性皮膚潰瘍・壊疽グループ): 中西健史、池上隆太、大森俊、加藤裕史、小森敏史、清水知道、杉田和成、谷崎英昭、中島英貴、林周次郎、松尾梨沙、三井広、柳澤宏人、山口道也、山崎修、西出薫、浅野善英、藤原浩、前川武雄、茂木精一郎、吉野雄一郎、長谷川稔、藤本学、立花隆夫。

創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン(2023)-3 糖尿病性皮膚潰瘍・壊疽診療ガイドライン(第3版)

日本皮膚科学会雑誌 133(13): 2969-3024, 2023.

創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン策定委員会(膠原病・血管炎グループ): 浅野善英、浅井純、石井貴之、岩田洋平、小寺雅也、宮部千恵、内山明彦、小川陽一、岡村賢、岸部麻里、小池雄太、壽 順久、藤本徳毅、宮城拓也、山口由衣、吉崎歩、大森礼子、中西健史、藤原浩、前川武雄、茂木精一郎、吉野雄一郎、長谷川稔、藤本学、立花隆夫。

創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン(2023)-4 膠原病・血管炎にともなう皮膚潰瘍診療ガイドライン(第3版)

日本皮膚科学会雑誌 134(1): 1-63, 2024.

創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン策定委員会(下腿潰瘍・下肢静脈瘤グループ): 前川武雄、伊藤孝明、出月健夫、太田真由美、坂井浩志、皿山泰子、田中隆光、新原寛之、伏間江貴之、牧野公治、八代浩、近藤晃代、浅野善英、中西健史、茂木精一郎、吉野雄一郎、藤原浩、長谷川稔、藤本学、立花隆夫。

創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン(2023)-5 下腿潰瘍・下肢静脈瘤診療ガイドライン(第3版)

日本皮膚科学会雑誌 134(2): 225-272, 2024.

創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン策定委員会(熱傷グループ): 吉野雄一郎、天野正宏、飯野志郎、尾本陽一、欠田成人、鹿兒山浩、齊藤亨、境恵祐、土井直孝、橋本彰、林昌浩、牧野雄成、増田未散、間所直樹、三木田直哉、安田正人、山田勝裕、浅野善英、中西健史、藤原浩、前川武雄、茂木精一郎、長谷川稔、藤本学、立花隆夫。

創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン(2023)-6 熱傷診療ガイドライン(第3版)

日本皮膚科学会雑誌 144(3): 509-557, 2024.

論文(症例報告)

Iwai Y, Fujiwara H.

Fluorescence imaging of lymphangioma circumscriptum of the vulva with aminolevulinic acid and target-type narrow band ultraviolet light.

Photodiagnosis Photodyn Ther 43: 103671, 2023.

学会・研究会・講演会

加古智子、入沢亮吉、大塚正樹、加持達弥、門野岳史、古賀文二、廣崎邦紀、野北陽子、藤原浩.

ガイドラインに則った褥瘡診療の要点.

第 122 回日本皮膚科学会総会 (口演)

(横浜, 2023 年 6 月 4 日)

佐藤亜美、藤原浩、長谷川剛、生越章.

外陰部に出現した巨大な malignant solitary fibrous tumor の 1 例.

第 410 回日本皮膚科学会新潟地方会 (口演)

(新潟, 2023 年 6 月 24 日)

佐藤亜美、藤原浩、長谷川剛.

鼻尖部に出現した皮膚 Rosai-Dorfman 病の 1 例.

第 411 回日本皮膚科学会新潟地方会 (口演)

(新潟, 2023 年 9 月 10 日)

佐藤亜美、藤原浩、長谷川剛、伊藤梢絵.

左耳介にメルケル細胞癌と有棘細胞癌の衝突腫瘍を認めた 1 例.

第 413 回日本皮膚科学会新潟地方会 (口演)

(新潟, 2024 年 3 月 3 日)

論文(症例報告)

Nakamura R, Hasegawa G, Ikeda Y, Hara N, Nishiyama T.

Complete remission following pembrolizumab therapy for a patient with nephroureterectomy positive-margin carcinoma in situ and bladder cancer unresponsive to Bacille Calmette-Guérin therapy.

SAGE Open Med Case Rep. 11: 2050313X231185444., 2023.

Ishida K, Hasegawa G, Ikeda Y, Hara N, Nishiyama T.

A case of cabozantinib therapy leading to complete remission for massive intra-intestinal bleeding and worsening metastatic sites following nivolumab and ipilimumab therapy.

Urol Case Rep. 51: 102603, 2023.

Ishida K, Hasegawa G, Hashimoto T, Ikeda Y, Hara N, Nishiyama T.

Pembrolizumab Therapy Leading to Complete Remission for Recurrence of Pulmonary Metastases after their Resection and Radical Cystectomy following Gemcitabine and Cisplatin Therapy.

Case Rep Urol. 2024: 5586448, 2024.

耳鼻咽喉科

論文(症例報告)

Kento Ko, Takeshi Takahashi, Kohei Honda, Arata Horii.

Avoiding total thyroidectomy for ectopic papillary thyroid carcinoma arising from the lateral neck.

Oral Oncol 145: 106501, 2023.

学会・研究会・講演会

黒田直之、木村堯、本田耕平.

降下性壊死性縦隔洞炎の2例.

第95回日耳鼻新潟県地方部会(口演)

(新潟, 2023年6月10日)

志田洋次郎、本田耕平、堀井新.

副耳下腺扁平上皮癌の1例.

第85回耳鼻咽喉科臨床学会総会(ポスター)

(東京, 2023年6月24日-25日)

本田耕平、志田洋次郎、笹川ゆい.

新潟県南魚沼市中学生におけるスギ花粉症疫学調査.

第62回日本鼻科学会総会(ポスター)

(三重, 2023年9月28日-30日)

木村堯、黒田直之、本田耕平.

中耳癌を合併した真珠腫性中耳炎の2例.

第96回日耳鼻新潟県地方部会(口演)

(新潟, 2023年12月9日)

黒田直之、木村堯、本田耕平、堀井新.

降下性壊死性縦隔洞炎3例の検討.

第33回日本頭頸部外科学会総会(口演)

(愛媛, 2024年2月2日)

本田耕平.

増加する上気道好酸球・アレルギー疾患とその対策.

第8回宮崎県皮膚科耳鼻咽喉科免疫アレルギー・ジョイントセミナー(講演)

(宮崎, 2024年2月8日)

論文(症例報告)

早福あやか、加嶋克則、齋藤朋子、横田一樹、新井龍寿、南川高廣、吉田邦彦、鈴木美奈。

胎児発育不全を生じた遺伝性出血性末梢血管拡張症の一例。

新潟産科婦人科学会誌 118(2): 74-77, 2024.

学会・研究会・講演会

鈴木美奈。

災害や紛争地で一資源が限られた危機的現場での超音波診断。

第 96 回日本超音波医学会学術集会 (口演)

(さいたま市, 2023 年 5 月 29 日)

齋藤朋子、鈴木美奈、早福あやか、横田一樹、新井龍寿、南川高廣、吉田邦彦、加嶋克則。

弛緩出血に対し安価で手技が容易な B-Lynch 変法が有用であった子宮内感染適応の帝王切開症例。

第 194 回新潟産科婦人科集談会 (口演)

(新潟市, 2023 年 6 月 10 日)

新井龍寿。

経膈分娩後の後腹膜血腫に対して子宮全摘術を要した一例。

第 118 回魚沼産婦人科医会 (口演)

(南魚沼, 2023 年 9 月 29 日)

横田一樹。

術後 TC 療法及び放射線治療を行うも奏効せずレンバチニブ+ペムプロリズマブ併用療法が有効である子宮体癌 IVB 期の一例。

第 118 回魚沼産婦人科医会 (口演)

(南魚沼, 2023 年 9 月 29 日)

加嶋克則。

進行・再発子宮体癌症例に対するレンバチニブ+ペムプロリズマブ併用療法の使用経験からの考察。

Gynecologic Oncology Seminar in Niigata (口演)

(南魚沼, 2023 年 10 月 25 日)

加嶋克則。

当院におけるレルミナ錠の使いどころ。

第 1 回新潟県産婦人科良性疾患研究会 (口演)

(新潟市, 2024 年 2 月 3 日)

新井龍寿、早福あやか、齋藤朋子、横田一樹、南川高廣、吉田邦彦、鈴木美奈、加嶋克則。

当院において骨盤臓器脱に対して内視鏡下に子宮全摘術および膣断端仙骨子宮靭帯固定術を施行した 3 例。

第 39 回新潟産科婦人科手術・内視鏡下手術研究会 (口演)

(新潟市, 2024 年 2 月 17 日)

早福あやか.

子宮全摘後にメトトレキサート療法を施行した肺転移を認めた侵入奇胎の1例.

第118回魚沼産婦人科医会（口演）

（南魚沼，2024年3月1日）

研究費(科学研究費)

加嶋克則：分担 基盤研究費（C）20K10448 2020～2023年度

子宮内胎児発育不全の発症予防を目的とした遺伝子多型と嗜好品摂取との相互作用解析

論文(原著)

Kawaguchi G, Akazawa K, Ikeda T, Ikeda Y, Hara N, Nishiyama T.

Prostate-specific antigen doubling time following radium-223 treatment as a predictor of the clinical course in patients with metastatic castration-resistant prostate cancer.

SAGE Open Med. 11: 20503121231168493., 2023.

研究費(科学研究費)

川口弦：代表 若手研究 18K15626 2018～2023 年度

革新的動体追跡放射線治療に向けたクリップマーカーの開発および臨床応用

リハビリテーション科

学会・研究会・講演会

大西康史

「地域」で「在宅」で～リハビリテーション科医の役割.

第5回日本在宅医療連合学会大会「在宅障害者に対するリハビリテーション医療の役割」(パネルディスカッション)
(新潟, 2023年6月24日)

大西康史

新潟県魚沼圏域における脳卒中の横断的リハビリテーション診療の試み.

第60回日本リハビリテーション医学会学術集会(ポスター) (福岡, 2023年6月30日)

大西康史

生活期のリハビリテーション.

日本リハビリテーション医学会認定臨床医資格取得講習会(講師) (東京・VOD, 2023年6月29日-7月2日)

大西康史

生活の場での障害の見方.

生活期のリハビリテーションにかかわる医師のための研修会(初級)(講師) (東京, 2024年1月20日)

論文(症例報告)

Satoshi Maruyama, Hiroyuki Kano, Yusuke Kato et.al

Liquid-based cytology for differentiating two cases of pemphigus vulgaris from oral squamous cell carcinoma.

Diagnostic Cytopathology 1: 1-6, 2023. (補遺)

学会・研究会・講演会

加納浩之.

生活習慣病と食 ～お口の健康から体の健康へ～

南魚沼市 健康増進員研修会 (口演)

(南魚沼, 2023年7月8日)

研究費(科学研究費)

長谷川剛：分担 基盤研究費（C）20K09860 2020～2023 年度

抗ストレス薬は糖尿病患者の創傷治癒を促進するか？

感染管理部

著書など

目崎恵

ウィズコロナ時代の感染対策ベストアンサー 9.

INFECTION CONTROL 2023年5月号, 58-62頁, メディカ出版, 2023.

目崎恵

感染対策地域連携マニュアル.

INFECTION CONTROL 2023年8月号, 188-191頁, メディカ出版, 2023.

目崎恵

研修。マニュアル改定のヘルプブック.

INFECTION CONTROL 2023年11月号, 67-70頁, メディカ出版, 2023.

学会・研究会・講演会

目崎恵

一人ひとりが取組む現場に活かす感染対策.

日本看護協会 (講演)

(新潟市, 2023年5月22日)

目崎恵、勝又尚美

感染予防対策リーダー養成研修 全5回.

南魚沼地域振興局 (講師)

(南魚沼, 2023年6月-2024年2月)

目崎恵、勝又尚美

器材シンクの微生物菌量減少に向けた多面的取り組み.

第38回日本環境感染学会学術集会 (講演)

(横浜, 2023年7月20日-22日)

目崎恵

"令和5年度パワーアップセミナー3 子どもと職員を守る感染症の予防・対応・管理"

新潟県保育士会 (講演)

(新潟市, 2023年7月27日)

目崎恵、勝又尚美

魚沼圏域における感染リンクナース研修会 全4回.

魚沼圏域看護職会議 (講師)

(南魚沼, 2023年9月-2024年3月)

目崎恵.

標準予防策を見直して、新興感染症に耐えられる基礎を作しましょう.

新潟県腎不全学習会（講演）

（新潟市，2023年9月10日）

目崎恵.

多職種と協同して取り組む感染管理.

日本感染管理ネットワーク四国支部（講演）

（高知，2023年10月21日）

目崎恵.

アフターコロナ研修会.

新潟県介護老人保健施設協会（講演）

（新潟市，2023年10月27日）

勝又尚美.

感染性胃腸炎の感染対策.

苗場プリンスホテル感染対策研修会（講師）

（湯沢町，2023年12月7日）

目崎恵.

魚沼圏域リンクナース育成事業の紹介.

新潟県における人材育成シンポジウム（講演）

（web，2024年1月13日）

目崎恵.

群馬県感染症対策連絡協議会特別講演会.

群馬県医師会（講演）

（前橋，2024年1月24日）

目崎恵.

感染対策の基本について.

救命士感染対策研修会（講演）

（南魚沼，2024年3月11日）

学会・研究会・講演会

廣田尚子

当事者と家族の関係

令和5年度守門またたび会総会40周年記念講演会（講演）

（新潟，2023年4月22日）

薬剤部

論文(原著)

Kensuke Yoshida, Shinichi Watanabe, Naoto Hoshino, Kyongsun Pak, Noriaki Hidaka, Noboru Konno, Masaki Nakai, Chinami Ando, Tsuyoshi Yabuki, Naoto Suzuki, Kouji Katsura, Kei Tomihara, Akira Toyama.

Hospital pharmacist interventions for the management of oral mucositis in patients with head and neck cancer receiving chemoradiotherapy: a multicenter, prospective cohort study.

Support Care Cancer 31(5): 316, 2023.

学会・研究会・講演会

中島楓

院内処方箋に関する問い合わせ簡素化プロトコール導入の効果.

新潟県病院薬剤師会学術講演会 (講演)

(長岡, 2023年7月20日)

矢吹剛

地域医療の中核病院として TAKT 研究に取り組んでみて.

日本病院薬剤師会関東ブロック学術集会 (ポスター)

(新潟, 2023年8月26日-27日)

寺口敦、関口陽子

医薬品コードを用いた経過措置医薬品の管理.

日本病院薬剤師会関東ブロック学術集会 (ポスター)

(新潟, 2023年8月26日-27日)

中島楓、種村瞭、南場信人、今成拓、高村誠、鈴木さくら、岩田真子、関口陽子、貝瀬眞由美

院内処方箋に関する問い合わせ簡素化プロトコール導入の効果 (第2報)

日本病院薬剤師会関東ブロック学術集会 (ポスター)

(新潟, 2023年8月26日-27日)

山岸宏和、中島楓、種村瞭、寺口敦、山下朋江、鈴木さくら、菊地佑、渡部雄一郎

魚沼基幹病院における clozapine 血中濃度モニタリングの現状.

日本病院薬剤師会関東ブロック学術集会 (ポスター)

(新潟, 2023年8月26日-27日)

須藤清香、小野塚宙大、五十嵐詠美、寺口敦、矢吹剛、山下朋江、山岸宏和、小野塚愛、関口陽子、貝瀬眞由美

注射薬払出業務にバーコード照合システムを用いた医療安全への取組みと業務効率化.

日本病院薬剤師会関東ブロック学術集会 (ポスター)

(新潟, 2023年8月26日-27日)

山岸宏和、中島楓、種村瞭、寺口敦、山下朋江、鈴木さくら、関口陽子、菊地佑、渡部雄一郎

Clozapine 血中濃度モニタリングの有用性.

新潟精神医学会 (口頭)

(新潟, 2023年10月14日)

矢吹剛.

外来通院治療におけるシスプラチン投与の実際.

Pharmacy Seminar in Niigata 2024 (講演)

(新潟, 2024年2月1日)

矢吹剛、南場信人、関口陽子、貝瀬真由美.

当院における80歳を超える高齢者悪性リンパ腫の化学療法についての現状調査.

日本臨床腫瘍薬学会学術大会2024 (JASPO) (ポスター)

(新潟, 2024年3月2日-3日)

学会・研究会・講演会

若井亨

その検査指示その検査、指示通りで大丈夫ですか？ ～検査を成功させるための準備～

第 55 回ぐるぐる画像検討会（口頭：web）

（新潟，2023 年 6 月 23 日）

関安里沙

「気付き」から始まる緊急 CT 撮影。

第 19 回新潟 CT テクノロジー研究会（口頭発表）

（新潟，2023 年 7 月 15 日）

松本一則

画像の向こうにある大切な命を救う！－STAT 画像報告の重要性－

長野県 CT 撮影技術研究会第 31 回セミナー（講演）

（長野，2023 年 9 月 9 日）

廣田和也

9300R における Tc 製剤を用いた CardioMUSk 法の検討。

21th Good Job Conference in niigata（口頭発表）

（新潟，2023 年 9 月 30 日）

上村直史、棚邊哲史、桑原亮太、栗林俊輝、井開章博、金子隼汰、阿部一樹、高頭浩正、川口弦

前立腺がん全摘出後再発症例の放射線治療における SyncTraX FX4 の位置照合精度評価。

日本放射線腫瘍学会第 36 回学術大会（口頭発表）

（横浜，2023 年 11 月 30 日-12 月 2 日）

松本一則

たったひと言で救える命のために－想いを伝える STAT 画像報告－

富山県 CT 研究会スキルアップセミナー（講演）

（富山，2023 年 12 月 9 日）

國井正之

当院における SPECT-CT ～有用症例の報告～

P-NET 研究会（口頭発表）

（新潟，2024 年 1 月 25 日）

松本一則

頭部単純 CT 画像って敏感すぎて困っちゃう？！－新装置入れ替えで気付いたこと－

新潟 GE HealthCare CT ユーザーミーティング（口頭発表）

（web，2024 年 3 月 2 日）

関安里沙

当院での頭頸部術前 CTA

第 58 回新潟ぐるぐる臨床画像検討会（口頭発表）

（web，2024 年 3 月 13 日）

臨床検査科

学会・研究会・講演会

小林徹

顕微鏡の使い方.

令和 5 年度臨床血液部門実技研修会（講演）

（新潟，2023 年 7 月 15 日）

阿部美香

各施設の取り組みについて.

肺癌個別化治療講演会～検査技師の大切な役割～（パネルディスカッション）

（新潟・WEB，2023 年 8 月 5 日）

柴田真由美

女性リーダーに聞く！女性が活躍していくための苦悩と課題.

第 96 回新潟県臨床検査学会（パネルディスカッション）

（新潟，2023 年 12 月 10 日）

受賞

柴田真由美：篠川至賞

検査技師会の発展に功績のあった会員への報奨

（新潟県臨床検査技師会，2023 年 5 月）

論文(原著)

Fumihiko Nagano, Yoshihiro Yoshimura, Ayaka Matsumoto, Yoichi Sato, Takafumi Abe, Takahiro Bise, Yoshifumi Kido, Sayuri Shimazu, Ai Shiraishi.

Cut-off values for severe low muscle strength and skeletal muscle mass in post-acute patients with sarcopenia.
Geriatr Gerontol Int 23(7): 493-499, 2023.

Yoichi Sato, Yoshihiro Yoshimura, Takafumi Abe, Fumihiko Nagano, Ayaka Matsumoto, Hidetaka Wakabayashi.

Change in phase angle is associated with improvement in activities of daily living and muscle function in patients with acute stroke.
European Geriatric Medicine 14(6): 1333-1341, 2023.

Yoichi Sato, Yoshihiro Yoshimura, Takafumi Abe, Fumihiko Nagano, Ayaka Matsumoto.

Hospital-associated sarcopenia and the preventive effect of high energy intake along with intensive rehabilitation in patients with acute stroke.
Nutrition 116: 112181, 2023.

Yoichi Sato, Keiko Kabasawa, Yumi Ito, Shoichiro Tsugane, Kazutoshi Nakamura, Junta Tanaka, Ichiei Narita.

Association between physical activity in rural life and sarcopenia in community-dwelling middle-aged and older Japanese adults: a cross-sectional study.
The Tohoku Journal of Experimental Medicine 261(4): 317-323, 2023.

Takafumi Abe, Yoshihiro Yoshimura, Yoichi Sato, Fumihiko Nagano, Ayaka Matsumoto.

Applicability of the Diagnostic Criteria for Sarcopenic Obesity Defined by ESPEN/EASO Criteria in Acutely Admitted Patients with Stroke: Prevalence and Association with Outcomes.
Journal of Nutritional Science and Vitaminology 69(6): 454-462, 2023.

Ogawa M, Okamura M, Inoue T, Sato Y, Momosaki R, Maeda K.

Relationship between nutritional status and clinical outcomes among older individuals using long-term care services: A systematic review and meta-analysis.
Clin Nutr ESPEN 59: 365-377, 2024.

Yoichi Sato, Naoto Usui, Yoshifumi Abe, Daisuke Okamura, Yota Kuramochi, Sho Kojima, Nobuto Shinozaki, Yu Shimano, Nobuyuki Shirai, Kenta Mikami, Yoji Yamada & Masakazu Saitoh.

Effect of walkability on the physical activity of hemodialysis patients: a multicenter study.
Renal Replacement Therapy 10(16): <https://doi.org/10.1186/s41100-024-00532-4>, 2024.

著書など

阿部貴文、佐藤陽一、大口陽子、今井遼太。

高齢脳卒中患者の予後予測と目標設定。

理学療法ジャーナル 2023年6月号, 673-679頁, 医学書院, 2023.

学会・研究会・講演会

T.Inoue, M Okamura, M Ogawa, Y Sato, R Momosaki, K Maeda.

Effecte of nutritional issues on adverse outcomes in older adults with disabilities: asystematic review and meta-analysis.

45th ESPEN Congress 2023 (Poster)

(France, 2023年9月11日-14日)

Ryota Imai, Takafumi Abe, Seigo Yamaguchi, Shinpei Kimura, Atsuhiko Tsubaki.

Relationship between regional cerebral oxygen saturation and percutaneous oxygen saturation at initial mobilization in patients with acute heart failure.

ISOTT2023 (Poster)

(Tokyo, 2023年9月27日-10月1日)

M Saito, N Usui, S Kojima, Y Sato, Y Abe.

Osteosarcopenia and risk of protein energy wasting and physical frailty among patients undergoing hemodialysis.

16th Asian Confederation of Physical Therapy (Oral)

(Thailand, 2023年11月25日-26日)

佐藤陽一、吉村芳弘、阿部貴文、長野文彦、松本彩加。

急性期脳卒中患者における入院時の握力と退院時の排泄能力の関連。

第38回日本臨床栄養代謝学会学術集会 (ポスター)

(神戸, 2023年5月10日)

阿部貴文、吉村芳弘、佐藤陽一、長野文彦、松本彩加。

急性期脳卒中患者の入院時 Phase angle が退院時歩行機能へ与える影響。

第38回日本臨床栄養代謝学会学術集会 (口述)

(神戸, 2023年5月10日)

今井遼太。

魚沼基幹病院における心臓リハビリテーション。

第34回魚沼CD研究会 (口述)

(新潟, 2023年6月24日)

今井遼太、阿部貴文、山口征吾、木村新平、若杉嵩幸、田中和世、椿淳裕。

急性期心不全患者における初回離床時の局所脳酸素飽和度と転帰の予備的検討。

第29回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (口述)

(神奈川, 2023年7月15日-16日)

阿部貴文、吉村芳弘、佐藤陽一、長野文彦、松本彩加。

脳卒中患者のサルコペニアが再入院へ与える影響。

第 21 回日本神経理学療法学会学術大会（ポスター）

（横浜，2023 年 9 月 10 日-11 日）

佐藤陽一、吉村芳弘、阿部貴文、長野文彦、松本彩加。

理学療法の実施時間は嚥下障害のある急性期脳卒中患者の嚥下機能改善に貢献するか。

第 9 回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会（口述）

（新潟，2023 年 9 月 17 日-18 日）

佐藤陽一。

急性期脳卒中患者の疾患重症化予防を目指して ―サルコペニアに着目して―

第 9 回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会（口述）

（新潟，2023 年 9 月 17 日-18 日）

阿部貴文、吉村芳弘、佐藤陽一、長野文彦、松本彩加。

急性期脳卒中患者の入院時のサルコペニアが長期的な機能予後へ与える影響。

第 9 回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会（口述）

（新潟，2023 年 9 月 17 日-18 日）

阿部貴文。

ナイスステップな臨床研究 -U30・一般病院からの挑戦- 急性期病院からの挑戦。

第 9 回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会（口述）

（新潟，2023 年 9 月 17 日-19 日）

今井遼太。

当院における心リハの現状と併存疾患としての心疾患に対応するには。

第 14 回南魚沼リハビリテーション連絡会研修会（口述）

（新潟，2023 年 10 月 14 日）

佐藤陽一、吉村芳弘、阿部貴文、長野文彦、松本彩加。

急性期脳卒中患者におけるエネルギー摂取量とリハビリテーション時間が入院関連サルコペニアの予防に与える影響。

第 10 回日本サルコペニア・フレイル学会大会（ポスター）

（東京，2023 年 11 月 4 日-5 日）

近藤孝覚、丸山航輝、皆川勝、桑原貴之、関悟。

作業療法士が製作したコミュニケーション機器の導入。

第 57 回日本作業療法学会（ポスター）

（沖縄，2023 年 11 月 10 日-12 日）

阿部貴文。

理学療法士レジデント修了後のキャリアデザインの一例。

第 6 回日本理学療法管理学会（口述）

（東京，2023 年 11 月 11 日-12 日）

佐藤陽一。

半日で学べる糖尿病に対する理学療法 in 新潟。

第 4 回領域別研修会（糖尿病理学療法）（講師）

（新潟，2023 年 11 月 25 日）

井佐龍太郎、今井遼太、阿部貴文、山口征吾。

当院における救急病棟の早期離床に対する意識調査。

第 35 回新潟県呼吸療法研究会総会（口述）

（新潟，2023 年 12 月 9 日）

阿部貴文。

理学療法士レジデント修了後の活動報告。

第 3 回理学療法士・作業療法士・言語聴覚士レジデントフォーラム（口述）

（神奈川，2024 年 2 月 24 日）

佐藤陽一、蒲澤佳子、伊藤由美、中村和利、田中純太、成田一衛。

農作業及び除雪とサルコペニアとの関連：湯沢コホート研究。

第 13 回日本リハビリテーション栄養学会学術集会（口述）

（三重，2024 年 3 月 2 日）

今井遼太、阿部貴文、山口征吾、椿淳裕。

72 時間以内の初回離床ができない ICU 入室患者は局所脳酸素飽和度が低い。

第 25 回日本光脳機能イメージング学会学術集会（ポスター）

（東京，2024 年 3 月 2 日）

今井遼太、阿部貴文、山口征吾、椿淳裕。

重症患者における初回離床時の局所脳酸素飽和度とバイタルサインの関連。

第 51 回日本集中治療医学会学術集会（ポスター）

（北海道，2024 年 3 月 14 日・16 日）

受賞

今井遼太：第 29 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会優秀賞

急性期心不全患者における初回離床時の局所脳酸素飽和度と転帰の予備的検討。

（第 29 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会，2023 年 7 月）

佐藤陽一：第 13 回日本リハビリテーション栄養学会学術集会最優秀演題賞

農作業及び除雪とサルコペニアとの関連：湯沢コホート研究。

（第 13 回日本リハビリテーション栄養学会学術集会，2024 年 3 月）

研究費(科学研究費)

佐藤陽一：代表 若手研究 22K17607 2022～2025 年度

臥位で評価可能な体組成評価は脳卒中の予後を予測できるか？

学会・研究会・講演会

本田恵理

心不全疾病管理を考える 多職種の取り組み.

中越地区心不全診療を考える会 (講演・web)

(南魚沼, 2023年6月28日)

本田恵理

魚沼基幹病院における栄養連携の状況.

令和5年度第2回医療介護連携の推進に向けた特定給食施設等研究会 (講演)

(南魚沼, 2023年12月8日)

本田恵理

魚沼基幹病院循環器チームとしての管理栄養士としての役割.

魚沼市医療公社地域医療魚沼学校 楽語り講座 (講演・web)

(魚沼市, 2023年12月20日)

学会・研究会・講演会

角田聡美

お口の健康から体の健康へ ～ご存知ですか？オーラルフレイル～

楽語り講座（口演）

（魚沼，2023年10月11日）

青柳友美

周術期等口腔機能管理対象者の検討 ～骨吸収抑制薬剤開始前の口腔内精査依頼について～

大腿骨近位部骨折予防連携の会（口演）

（六日町，2024年3月15日）

看護部

学会・研究会・講演会

山崎文雄

抑制しない看護を目指して.

公益社団法人新潟県看護協会うおぬま支部通常集会（口演）

（新潟，2023年6月24日）

森山一樹

長期の腹臥位を行った症例に対して褥瘡予防の取り組みとその効果.

第38回新潟救急医学会（口演）

（新潟，2023年7月9日）

青木瞳

新潟県の地域基幹病院におけるがん放射線療法看護認定看護師の役割について.

令和5年度第1回長野県放射線治療研究会（講師）

（長野・Web，2023年7月22日）

高橋みはる、阿部有華

雪国の暮らしを楽しむ看護職の人材確保・育成.

日本ルーラルナース学会第18回学術集会（パネリスト）

（新潟，2023年9月23日）

笠井美香子

看護師基礎教育を考える.

新潟県看護協会（パネリスト）

（新潟，2023年11月18日）

高橋みはる

組織内・地域の課題を整理しよう.

地域包括ケアシステムにおける在宅療養に向けた看護管理者の実践的研修（口演）

（新潟，2023年12月15日）

嶋田美智子

令和6年能登半島地震におけるDMAT活動.

令和6年能登半島地震 DMAT活動報告会（口演・パネリスト）

（新潟，2024年3月9日）

学会・研究会・講演会

今井麻奈

能登半島での活動 ―DMAT の自己完結性について―

令和 6 年能登半島地震 DMAT 活動報告会（口演・パネリスト）

（新潟，2024 年 3 月 9 日）

地域連携推進室

高橋 菜由、小島理、大塚佳子、阿部美由紀、佐藤芳伸、生越章。

地域連携情報共有 WEB 会議の取り組みと効果。

地域連携推進室

小島理、高橋 菜由、大塚佳子、阿部美由紀、佐藤芳伸、関一弥、生越章。

当院からの転院搬送における救急車利用の実態調査。

薬剤部

山岸 宏和、中島楓、種村瞭、寺口敦、山下朋江、鈴木さくら、関口陽子、渡部雄一郎。

個別化医療に向けた clozapine 血中濃度モニタリングの有用性。

薬剤部

須藤 清香、小野塚宙大、五十嵐詠美、寺口敦、矢吹剛、山岸宏和、小野塚愛、関口陽子、貝瀬眞由美、須田剛士。

注射薬払出業務にバーコード照合システムを用いた医療安全への取り組みと業務効率化。

薬剤部

中島 楓、種村瞭、南場信人、今成拓、高村誠、鈴木さくら、岩田真子、関口陽子、貝瀬眞由美、須田剛士。

院内処方箋に関する問い合わせ簡素化プロトコール導入の効果（第 2 報）

臨床検査科

加藤 義揮、柴田真由美、宮下裕美、丸山奈穂、春日萌花、加藤瑞希、山田優、橋井美月、松崎菜々子、木村新平。

心エコーデビューまでの道のり。

リハビリテーション技術科

井佐 龍太郎、近藤孝覚、大口陽子、大津友樹、阿部貴文、桑原貴之、佐藤陽一、八木俊哉、米岡有一郎。

急性期脳卒中患者の入院時 FIM 認知項目と自宅退院可否の検討。

臨床工学科

山田 竜、今井南、勝又稔、永野敦嗣、飯野則昭。

シャントエコー業務を始めて。

栄養管理科

本田 恵理、笠原夏美、星野佐智子、高野久美子、今井遼太、坂大朝光、佐藤陽一、中島楓、星山祐子、木村新平。

心不全治療における多職種連携の効果。

診療技術科

青柳友美、松原ちえみ、山本佳奈、角田聡美、井口千絵、関ひろみ、加藤祐介、村山未帆、加納浩之.

周術期等口腔機能管理対象者の検討 ～骨吸収抑制薬剤開始前の口腔内精査依頼について～

看護部

山口政嗣、千賀恵実、武田ひなの、井瀨慎弥、茂泉和麿、本間健一、生越章.

当院での骨折リエゾンの取り組み —動画を用了患者／家族への啓発—

看護部

高橋みはる、井口真由美、笠井美香子、阿部美由紀、大塚佳子、小山大介、高橋初美、高田俊範.

自律した看護師を目指して ～看護方式 PNS®から UKB 式パートナーシップへの変更～

看護部

池澤直美、丸山智子、山崎文雄、若林梨美、角山登志子、高橋みはる、渡部雄一郎、薄田芳裕.

認知症せん妄委員会の立ち上げを目指して.

看護部

成田恵、平賀紀子、高松恵、南雲みのり、鈴木博.

NICU クリニカルラダーの導入 ～スタッフ一人ひとりのスキルアップを目指して～

院内研修会

<UKB Case Conference>

薄田芳裕.

修正型電気痙攣療法のため転院した1例. (2023年8月18日)

小林大悟.

研修医を対象とした症例の学習会. (2023年8月18日)

阿部聡司.

上行結腸癌の1例. (2023年10月24日)

米岡有一郎.

脳腫瘍の1例. (2023年10月24日)

永野敦嗣.

ネフローゼ症候群の疑いの1例. (2023年12月26日)

新井龍寿.

卵巣がんの1例. (2023年12月26日)

平野徹.

腰椎化膿性脊椎炎の1例. (2024年2月15日)

逸見華子.

左肺化膿症の1例. (2024年2月15日)

<院内感染対策研修会(感染管理委員会)>

伊藤竜.

成人 COVID-19 の治療. (2023年5月29日)

目崎恵.

これまでとこれからの感染対策. (2023年5月29日)

笠原夏実.

病院給食における感染対策. (2023年9月1日)

勝又尚美.
院内における感染性胃腸炎対策. (2023年9月1日)

坂西清.
細菌培養検査から分かること. (2023年11月1日)

岩田真子.
抗菌薬について・・・なぜ適正使用が必要なの? (2023年11月1日)

岩田真子.
ワクチンの種類や接種間隔について. (2024年1月17日)

目崎恵.
医療従事者に必要なワクチン. (2024年1月17日)

<災害研修会(防災委員会)>

米山良英.
院内火災への対応. (2023年7月21日)

米山良英.
災害発生後の災害対策本部内の動き. (2023年11月8日)

山口政嗣.
災害発生後の患者対応. (2023年12月5日)

<看護部医療安全委員会(看護部)>

小川るり子.
静脈注射に関する知識習得(解剖) (2023年7月19日, 7月31日)

山崎文雄.
拘束帯の適正使用. (2023年7月13日)

小川るり子.
安全な抗がん剤投与を目的とした穿刺. (2023年8月22日)

山崎文雄.
拘束帯の適正使用. (2023年9月29日, 10月27日)

勝又尚美.
血管内カテーテル血流感染予防策 (2023年10月12日)

<看護部化学療法委員会(看護部)>

小川るり子.
がん化学療法看護スキルアップ研修 第1回(基礎編①) (2023年7月18日)

小川るり子.
がん化学療法看護スキルアップ研修 第2回(基礎編②) (2023年8月30日)

小川るり子.
がん化学療法看護スキルアップ研修 第3回(ICI) (2023年9月20日)

小川るり子.
がん化学療法看護スキルアップ研修 第4回(曝露対策) (2023年10月23日)

小川るり子.
がん化学療法看護スキルアップ研修 第5回(過敏症) (2023年11月15日)

小川るり子.
がん化学療法看護スキルアップ研修 第6回(血管外漏出) (2023年12月20日)

小川るり子.
がん化学療法看護スキルアップ研修 第7回(ICI) (2024年1月31日)

<認知症・せん妄ケア委員会(看護部)>

山崎文雄.
認知症対応力向上研修 (2023年9月7日, 10月19日)

<専門・認定看護師会(看護部)>

高松恵.
新生児の看護. (2023年7月19日)

青木瞳.
放射線治療の有害事象と看護、リニアック室見学. (2023年9月6日)

<難病患者支援者研修会>

寺島健史.

筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の基本的理解～医療ニーズの高い神経難病患者支援の実際. (2024年2月9日)

<新人看護師研修>

近藤孝覚、坂大朝光、目黒風也、今井滉太.

移乗の留意点について／ポジショニング／廃用症候群の予防. (2023年4月11日)

<西6病棟勉強会>

大津友樹.

脳卒中患者の麻痺の見方. (2023年6月22日)

丸山航輝.

脳卒中患者の嚥下障害. (2023年8月24日)

桑原貴之.

高次脳機能障害とADL. (2023年10月26日)

<感染リンクスタッフ研修会>

目崎恵、勝又尚美.

標準予防策の基本の「き」／手指衛生の正しい方法／手指衛生5つの瞬間について正しく理解する／个人防护具の適正使用と不適正な使用／環境衛生と医療機器の適正管理. (全6回)

<創傷リンクナース研修会>

佐藤将史.

摩擦とずれについて／耐圧分散寝具の選択・使用方法について. (2023年10月10日)

<ACU勉強会>

阿部貴文.

早期リハビリテーションについて. (2023年9月28日)

阿部貴文.

早期リハビリテーションについて. (2023年10月26日)

阿部貴文.

早期リハビリテーションについて.

(2024年1月31日)

<臨床検査科勉強会>

大口陽子、阿部貴文.

患者移乗動作について.

(2023年12月20日)

<第3回がん患者サロン>

篠原未希.

栄養療法で心身ともに元気な体を作ろう!

(2023年12月3日)

<新人看護師研修会>

鈴木さくら.

薬の知識①

(2023年4月14日)

今成拓.

インスリンについて.

(2023年4月28日)

山岸宏和.

薬の知識②

(2023年5月12日)

<新人看護職員研修会>

関口陽子.

麻薬の種類と取扱い, 新人看護師が知っておくべき麻薬の副作用.

(2023年6月8日)

柴田真由美.

輸血の基本 (製剤の取り扱いから輸血まで)

(2023年6月8日)

<看護職員向け研修>

山岸宏和.

注射の取り扱いについて.

(2023年12月11日)

<東 6 学習会>

青木瞳.

泌尿器科分野の放射線治療と看護について ～主に前立腺がん～

(2023 年 8 月 22 日)

<NST 勉強会>

阿部聡司.

Refeeding syndrome について.

(2023 年 12 月 15 日)

<放射線技術科安全教育(看護部)>

國井正之.

放射線の基礎と医療放射線を学ぶ.

(2023 年 4 月 6 日)

<西 4 病棟勉強会>

原田瑞生.

乳幼児の急変対応について.

(2023 年 8 月 8 日)

<東 4 病棟勉強会>

相田麻依、桑原健輔.

小児のけいれん ～結局どうすればいいの～

(2024 年 3 月 22 日)

Annals of Uonuma Kikan Byoin

VOL.8

発行者 病院長 鈴木 榮一
教育センター長 高田 俊範

発行 2024年8月1日

発行所 一般財団法人新潟県地域医療推進機構
魚沼基幹病院
〒949-7302 新潟県南魚沼市浦佐4132
TEL 025-777-3200
FAX 025-777-2811
<https://www.uonuma-kan-hospital.jp/>

編集担当 総務課総務係 米山 良英
※電子データが必要な場合は、編集担当までご連絡ください。



新潟大学地域医療教育センター

魚沼基幹病院